

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年4月18日（金）

2 確認箇所

第二土捨場（図1）

3 確認項目

瓦礫類分別作業エリアの状況

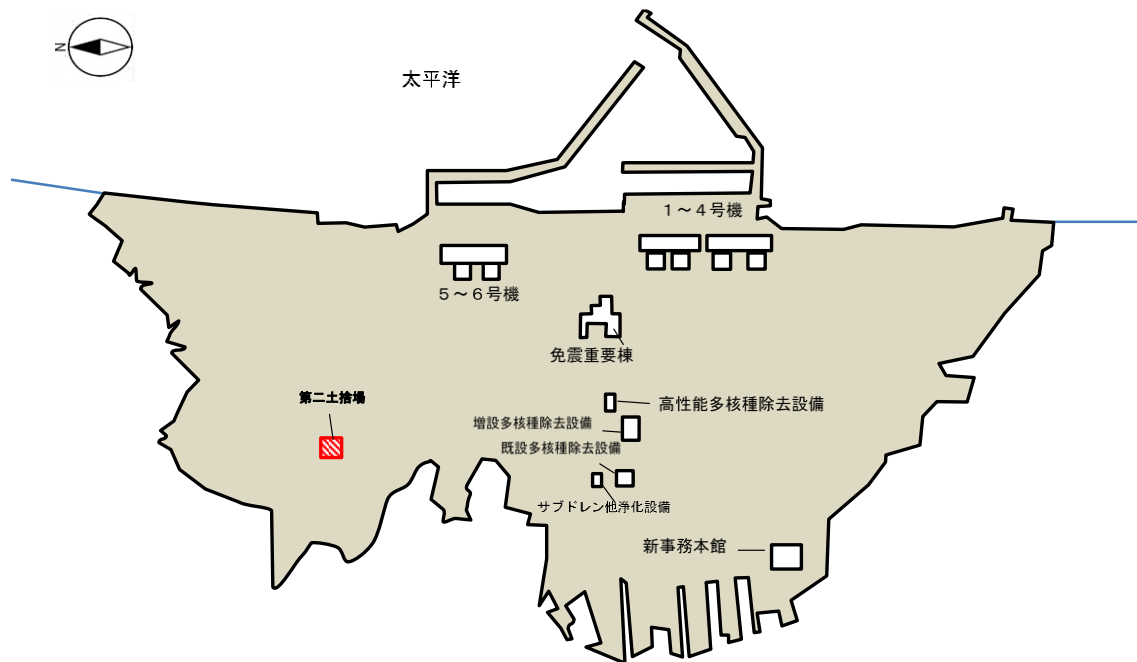
4 確認結果の概要

国が定めた中長期ロードマップでは、2028年度内までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外での保管を解消することを目標としている。

東京電力は、固体廃棄物のうち瓦礫等（瓦礫類、伐採木、使用済保護衣等）を可能な限り減容した上で建屋内保管へ集約し、屋外の一時保管エリアを解消するとしている。

本日は、固体廃棄物の管理状況を確認する一環として、構内で発生した瓦礫類（金属・コンクリート等）の分別作業を実施している第二土捨場南西側エリア（以下「エリア」という。）の状況を確認した。（前回確認：令和6年7月1日）

- ・エリア内の一角には、金属くずや碍子等、さまざまな種類の不燃物が野積みされており、その近くには分別作業用の重機が駐機されていた。なお、当該重機からの作動油の漏えい等の異常は確認されなかった。（写真1）
- ・エリア内に仮置きされているノッチタンクは、水の浸入を防ぐため養生シートで覆われていた。養生シートには、破れやめくれ等の異常は確認されなかった。（写真2）
- ・火災に備えて、消火器が配備されていた。消火器に貼付されていた点検表によると、消火器は年に1回点検されており、管理状態に問題はなかった。（写真3）
- ・現場確認時、分別された不燃物を収納したコンテナの運搬作業が実施されていた。玉掛作業に当たっては、合図者、玉掛者、玉掛補助者が適切に配置され、声・笛・手の合図を用いて連携のとれた安全な作業が行われていた。なお、吊り荷の操作には介錯ロープが使用されていた。（写真4）
- ・コンテナの保管場所が線量に応じて区分されていることから、搬出先を決定するために、運搬前にコンテナ表面の線量測定が実施されていた。（写真5）
- ・瓦礫類のエリア外への散逸、水や油の漏えい等の異常は認められなかった。



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 - 1)
不燃物の仮置き状況①



(写真 1 - 2)
不燃物の仮置き状況②



(写真2)
ノッチタンクの仮置き状況



(写真3)
消火器の設置状況



(写真4)
コンテナ運搬作業の状況



(写真5)
コンテナ表面の線量測定状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。